

行政事業レビューシート (国土交通省)

予算事業名	改正SOLAS条約等を踏まえた総合的な港湾保安対策		事業開始年度	平成17年度		作成責任者
担当部局庁	港湾局		担当課室	総務課港湾保安対策室		室長 魚住 聡
会計区分	一般会計		上位政策	海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなどの振興、安定的な国際海上輸送の確保の推進		
根拠法令 (具体的な条項も記載)	国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律第1条、第35条第2項、第44条第4項		関係する計画、通知等	総合物流施策大綱(2009-2013)(平成21年7月14日閣議決定)		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2001(H13)年9月11日に勃発した米国同時多発テロを契機に改正SOLAS条約が2004(H16)年7月より発効した。同条約に規定された締約政府の義務を果すため、国は全国統一的な観点から各国際埠頭施設の管理者が定める埠頭保安規程の承認や立入検査等を行い、同施設の管理者は当該施設に係る保安対策を実施している。このような中で、国による保安対策の確実な実施及び迅速な情報伝達体制の維持等を図ることにより、我が国の国際港湾において全国的に一定の保安水準を確保し、危害行為の防止に努めることを目的とする。					
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国際埠頭施設の保安状況の評価、保安規程の承認、国際埠頭施設の管理者が実施している保安対策に対する立入検査等を行う。 また、G8関係国間で保安対策に関して今後取り組むべき課題等を共有し我が国のセキュリティ向上に資するため、諸外国の優良な取組み等に関して、相互訪問による保安調査を実施する。 さらに、効率的・効果的な保安対策業務を行うため、港湾局、海事局、海上保安庁の海事3局が保有する保安情報の共有化(海事3局連携データベース)を図るとともに、必要となるハードウェアの保守を実施する。					
実施状況	平成19年度: 274箇所への立入検査等、4カ国への保安調査、海事3局連携データベースの構築 平成20年度: 307箇所への立入検査等、5カ国への保安調査、海事3局連携データベースのハードウェア保守 平成21年度: 309箇所への立入検査等、5カ国への保安調査、海事3局連携データベースのハードウェア保守					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	5	4	3	4	
	執行額	5	4	3		
	執行率	100.0%	100.0%	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	-	-	-		
自己点検	支出先・用途の把握水準・状況	港湾局が自ら契約等を行う業務であることから、支出先や用途については全て把握している。また、支出にあたっては検査等を行い実施内容の確認を行っている。				
	見直しの余地	・立入検査等及び相互訪問による保安調査について、これまでも合理的かつ効率的な執行を行ってきたが、更なる効率化が図られるよう、検査計画及び旅程の工夫等について引き続き検討を行う。 ・海事3局連携データベースについて、これまでも一般競争入札による合理的かつ効率的な執行を行ってきたが、引き続き予算の執行方法の合理化・効率化の余地について検討を行う。				
予算監視の効率化						
補記	【予算科目】 ・038 総合的物流体系整備推進費 ・95 総合的物流体系整備の推進に必要な経費 (21年度予算額) (21年度決算見込額) ・95016-2122-08 職員旅費 1百万円 1百万円 ・95016-2122-08 外国旅費 1百万円 1百万円 ・95016-2123-09 総合的物流体系整備推進調査費 1百万円 1百万円					

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて捕捉する)
(単位: 百万円)

国土交通省

3百万円

立入検査等及び相互訪問による保安調査に係る企画立案及び実施。
海事3局連携データベースのハードウェア保守業務実施に係る企画立案、業務発注及び執行管理。



【 一般競争 】

A. 株式会社ドヴァ

1百万円

海事3局連携データベースのハードウェア保守業務を実施。

職員旅費

1百万円

外国旅費

1百万円

A. 株式会社ドヴァ

費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
調査費	海事三局連携データベース維持保守業務	1			
計		1	計		0

費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者につ
 いて記載する。使途と費目の
 双方で実情が分かるように
 記載)